

令和2年1月 データから見た業界の動き

■ 概 況

1月の山梨県内のD I 値は、業種全体で売上高は▲32ポイント（前年に比べ▲28）、収益状況は▲28ポイント（前年に比べ▲22）、景況感▲26ポイント（前年に比べ▲18）となり、いずれの項目とも昨年より大きく悪化している。

製造業では、売上高▲25（前年に比べ▲25）、収益状況▲20（前年に比べ▲15）、景況感▲30（前年に比べ▲20）と前年に比べ悪化し、米中貿易摩擦の影響は長期化し、さらに消費増税による消費の冷え込みによる影響を不安視するコメントが寄せられた。金属製品製造業・工作機械部品加工業では在庫調整が落ち着き、受注が増えつつあるとの報告があった。

非製造業では、売上高▲37（前年に比べ▲30）、収益状況▲33（前年に比べ▲26）、景況感▲23（前年に比べ▲16）と製造業と同様に前年に比べ悪化している。

多くの業界で今後新型コロナウイルスの影響を懸念する声があった。宝飾業界では例年開催されるイベントが延期となり売上高が減少している。宿泊業ではインバウンドを中心に旅行者の減少から空室が目立っている。運輸業（タクシー）においても利用者の減少が進んでいるとの報告があった。

今後さらに新型コロナウイルスの感染拡大が進むとなると、中小企業経営への影響が深刻化する。景気低迷に拍車がかからない様、早期の終息が期待される。感染症への対策や、受注、原材料の確保など事業を安定的に維持させるために、事業継続計画の策定が改めて必要であり、中央会では支援は急務と考えている。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工業）	ギフト関係の売上は前年同月比90.0%と不振だが、ホテル・レストラン・居酒屋向けの業務用が好調で、全体としてギフトの落ち込みを補い前年同月比108%。
食料品（洋菓子製造業）	積極的な店舗展開から洋菓子・和菓子ともに順調。特に価格帯が手ごろな年始用のギフトが好調で、売上高は前年同月比114%。
食料品（パン・菓子製造業）	雇用人数は対前年比で減少しているが、12月ごろからはハローワーク等で求人を行うと応募があるようになってきている。
食料品（酒類製造業）	12月に山日新聞が創刊から5万号を迎えたことと山梨県のワイン県宣言を記念した企画として県内ワイナリー64社のワインがプレゼントとして実施され消費者に大変好評であった。県産ワインが更に消費者に浸透するよう努めていく。

繊維・同製品（織物）	全般的に厳しい。インテリア関係はホテル関連でグレードが高いものが使用されている。
木材・木製品製造	人手不足が課題。例年仕事量が減少する1・2月に有給休暇取得を進めている。
家具製造	消費増税前後は売上げの増減があったが、徐々に例年並みになってきた。
窯業・土石（砂利）	繁忙期を迎え需給量が増加している。特に砂の需要が多く砂不足が続いている。資材価格の高騰、経費増大から4月より骨材価格の値上げを実施する。
窯業・土石（山碎石）	台風災害復旧工事関連の舗装工事や鉄道道床に使用される材料は増加したが、一般基礎工事に必要な材料の出荷は15%減少しており、全体の売上げは前年同月比で3%減少している。これから工事数が減少する時期なので不安は尽きない。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	在庫調整の兆しがある。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	昨年からの国外の景気の減速が続く。国内需要も消費増税による駆け込み需要の反動減から更なる悪化が予想される。
一般機器 （工作機械部品加工業）	取引先の在庫調整が進んだため、受注が少し増加しつつある。
電気機器 （電気機械部品加工業）	組合員間において操業割合に差がある。
電気機器 （電気機械部品加工業）	受注の動きは相変わらず鈍い。更なるコスト競争に対応していなければ生き残れないと感じている。
宝飾（研磨）	展示会での売上げが前年同月比で20%減少した。
宝飾（貴金属）	消費増税後の国内の売上高や生産量は減少している。中国向けの取り引きが新型コロナウイルスにより悪化するのではないかと懸念している。

● 非製造業

卸売（紙製品）	昨年末よりメーカーの操業が落ち込み納入が悪化している。消費の後退、新型肺炎等の影から改善する見込みは感じられない。業界内の廃業が更に進んでいる。
卸売（ジュエリー）	米中、米イラン、香港デモに加えて新型肺炎の影響から当業界は厳しい環境下にある。3月に予定されていた香港ジュエリーショーは5月に順延される。
小売（青果）	暖冬により大型野菜（白菜・キャベツ・大根）等が生長（＝成長）しすぎて豊作状態となり、安価に推移している。反面9～10月に行う春野菜類の種まきが、台風の影響で遅れたため収穫の遅れを懸念している。
小売 （電気機械器具小売業）	エアコン・冷蔵庫の主力商品は横ばい。その他は全体的に低調であった。

商店街	50年以上続く歳末福引きセールは年々売上げが減少傾向。対照的に新規のイベントは好評であった。商店街に何が必要なのか今後も探していきたい。
宿泊業	1月は例年低調であるが、新型肺炎の影響により中国人観光客のみならず日本人宿泊も減少している。インバウンド中心のホテルは大きな影響が出ている。
美容業	組合員の高齢化が進み、組合員数が減少傾向にある。業界では働き方改革に対応した影響から週休2日の店舗が少しずつ増えてきている。従業員の定着につながるよう期待している。
警備業	公共工事が好調で、正月休みが長かったものの対前年比で売上は5%増加した。賃金の値上や働き方改革への取り組みから離職率は減少、また一部の組合員で雇用の増加があった。しかし人件費等の経費の増大が収益を圧迫している。組合員は受注単価の引上げや金融機関の融資検討など、資金繰り対策を講じる必要であると感じている。
建設業（総合）	前年同月比で件数は1件増加、請負金額では33%増加している。1月末累計では件数は3%減少しているものの、請負金額は5%の増加となっている。
建設業（型枠）	公共・民間工事の型枠工事は年末でほぼ完了した。新年度4月以降の建築工事はあるが、年始からの仕事は少なく土木工事を請け負う組合員は多い。また来年末以降の仕事の確保に不安を持つ組合員が少なくない。
建設業（鉄構）	首都圏の物件に依存する生産状態が続いているため、オリンピック開催時期の交通規制の影響が懸念される。この期間の仕事量低減に対する策を各社検討している。
設備工事（管設備）	工事に比例して管材の売上げが対前年比を大きく下回っている。売り上げ不振の原因を特定するのが困難な状況である。
運輸（タクシー）	燃料が高騰している。乗務員の高齢化と乗務員不足が慢性化している。新型肺炎の影響からインバウンドにも影響が出ている。
運輸（トラック）	消費増税後の荷動きが悪化している。新型肺炎の感染が拡大していく中で今後、経済活動全般への影響が懸念される。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2019/1	2019/12	2020/1	2019/1	2019/12	2020/1	2019/1	2019/12	2020/1
売上高	0	-20	-25	-7	-33	-37	-4	-28	-32
収益状況	-5	-25	-20	-7	-10	-33	-6	-16	-28
景況感	-10	-30	-30	-7	-20	-23	-8	-24	-26

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

